

カンパチ人工種苗の現状

企画・栽培養殖部 研究専門員 野元 聡

目的

カンパチ人工種苗については、天然種苗と比べ成長が遅い、生残率が悪い等の理由により、その普及は伸び悩んでいる。そこで、当センターでは現場の要望に添ったカンパチ人工種苗を作るべく、選抜育種を主とした親魚養成の技術開発や、種苗生産時における種苗性(高成長、高生残)向上のための、飼育密度等の飼育環境の改善、種苗生産方法(餌料系列、選別方法等)の見直しを行っている。

生産に使用している親魚の現状について

選抜育種

- 現在使用している親魚はF2(人工種苗第2世代)生産している種苗はF3種苗
- 予定ではR3年からF3親魚より採卵F4種苗の生産が可能

生産に使用している親魚の世代の変遷

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
天然親魚											
F1親魚											
F2親魚											
F3親魚											

採卵までの養成期間

- 現在2歳で収容(10月)、翌年4月3歳で自然産卵による採卵に成功(陸上水槽での養成は7ヶ月のみ、コスト削減、育種のスピード化に繋がる)
- F2親魚からは成熟、産卵が比較的スムーズ、家魚化が進んできている可能性有
※家魚化=家畜の魚版、育種を重ねることによって飼育しやすい魚になること

カンパチ親魚養成、産卵のスケジュール

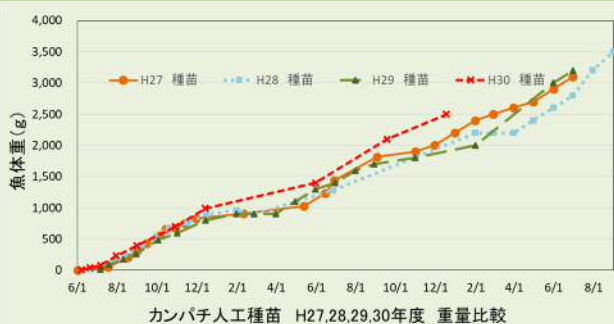
4月(0歳)	9月(2歳)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月(3歳)
海面での養殖		大型個体を選別し 陸上水槽へ搬入	陸上水槽での養成養成 (水温20℃以上)				日長、水温 制御による 成熟促進	上旬より 産卵開始 7月末まで産卵 ※ホルモン未使用



養成中のF2親魚
(H28年産)

人工種苗を用いた養殖の現状について

生産年度別 カンパチ人工種苗の成長



生産年度別 出荷までの養殖期間、生残率

	世代	導入時期	出荷時期	養殖期間	生残率
H27種苗	F2	H27年7月	H29年9月	2年2ヶ月	70%
H28種苗	F2	H28年6月	H30年8月	2年2ヶ月	80%
H29種苗	F2	H29年6月	R01年6月	2年	90%
H30種苗	F3	H30年6月			80%

成長

- 出荷までの養殖期間は、概ね2年～2年2ヶ月程度
- H30年(F3)種苗は成長が良好で養殖期間2年以内に出荷できる可能性有り

生残

- 出荷までの歩留まりは、70～90%
- 初期の人工種苗のような、歩留まりの低さは改善

今後の課題

- さらなる選抜育種による、高成長家系の作出
- 近親交配による負の影響への対策
- 種苗生産方法(餌料系列、選別方法等)の見直しによる種苗性(高成長、高生残)向上
- 協力養殖業者からの成長、生残及び体型等のデータ収集による評価